

加藤内科広報新聞 12月号

ウィルス性による感染性胃腸炎が流行っています。
手洗い、うがいは、感染予防になりますので、
日ごろから習慣付けるようにしましょう。

インフルエンザ予防接種 実施しています。

《ご希望の方は、窓口まで》

※予防接種可能な日

午前診 (火)・(木)・(土) の診察時間内 (午前9～12時)

午後診 (月)・(火)・(水)・(金) の診察時間内 (午後6～8時)

※1月より

午前中は混み合う場合が多いため、なるべく午後の診察時間内にお越しいただくよう、
お願い致します。どうしても上記の時間帯で都合がつかない方は、その都度
受付しますので窓口にてお申し出下さい。

『インフルエンザにかかったかな?』と思ったら、すぐに診察を受けましょう。
診察に来られる時は、感染を防ぐため、マスクの着用をお願いします。

年末年始休暇のお知らせ

12月29日(水)～1月4日(火)までお休みさせていただきます。
お休み中にご迷惑をお掛けしますが、宜しくお願い致します。

【救急安心センターおおさか】

大阪府では、病気やけがで“すぐに病院に行ったほうが良いのか?”“何科で受診したほうが良いのか?”など、迷った時の相談を、24時間、無休で対応していただけます。

固定電話(プッシュ回線)、携帯電話、PHS #7119

固定電話(ダイヤル回線)、IP回線 06-6582-7119

【休日診療所のご案内】 (12月30日から1月4日)

※泉北急病診療センター 堺市南区竹城台1丁8-1 TEL072-292-0099

診療科目 内科・小児科

受付時間 9:30～11:30 12:45～16:30

小児科のみ 17:30～翌日4:30 も受付しています。

※宿院急病診療センター 堺市堺区甲斐町東3丁2-6 TEL072-223-6170

診療科目 内科・小児科

受付時間 9:30～11:00 12:45～16:30



最近、ウィルス性による感染性胃腸炎が流行っています。よく耳にする、『ノロウィルス』も原因の一つにあたります。毎年この時期に流行し、家族や学校、職場で感染が広がりやすいとされています。抵抗力の弱い高齢者の方などは重症化したり、吐いたものを誤嚥することによる誤嚥性肺炎や、吐いたものを詰まらせて窒息することもあります。

Q：どうして感染するの？ 症状は？

A：ウィルスの付いたカキや二枚貝から感染することもあります。家庭や学校、職場などの共同生活施設等で、ウィルスの付いたトイレのドアノブや蛇口などから、手指や食品などを介して、口に入ることによって感染することが多いです。

吐き気や嘔吐、下痢や腹痛、軽度の発熱などの症状があります。

Q：感染した時の治療方法は？

A：患者様の症状に合わせて、吐き気止めや腸の働きを整えるお薬などを、医師により処方します。通常、健康な方は嘔吐、下痢などの症状が1～2日続いた後、自然に治癒します。

しかし、免疫力が落ち始める高齢者の方や、体力の弱い小さな子供さんは、下痢による脱水症状を起こしたり、体力を消耗するため、症状がひどい時は病院で点滴を受けるなどの治療が必要です。

Q：感染予防は？

A：手洗い・うがいをまめにする。外出から帰った時、トイレの後、調理や食事前など、日常的に習慣づけるようにすると良いです。

規則正しい生活をして、ウィルスに負けない体力をつくるようにしましょう。



Q：感染を広げないようにするには？

A：感染した嘔吐物や便には多量のウィルスが含まれています。

嘔吐物や便が感染源となり、家族の方や学校、職場などで感染が広がる恐れがありますので、注意が必要です。

嘔吐した場合は、口の中をよくすすぎ、使用した洗面器や流しなどは直ぐに洗浄・消毒をしましょう。処理する時は、ビニール手袋(なければビニール袋を利用する)を着用し、素手で触れないようにしましょう。

排便後は、石鹸・流水で手洗いをしっかり行いましょう。

衣類や床などに嘔吐物などが付着した場合、ペーパータオル等で拭き取り、85度以上の熱湯で消毒するか消毒液で消毒する様にしましょう。消毒液はミルトンやハイター(塩素系)が効果的です。

拭き取ったペーパータオルなどはビニール袋を二重にして入れ、密封して捨てるようにしましょう。

また処理が終わったら、手洗い・うがいを忘れないようにしましょう。



症状が回復しても1週間ぐらいは、
ウィルスが排出されていますので、
手洗い等の感染予防は続けるようにしましょう。